

J S Q C規格の開発・制定に関する提案書

規格の名称	TQMの指針(仮称)
規格の種類	○ 1. 規格 (JSQC-Std) 2. テクニカルレポート (JSQC-TR)
規格の適用範囲	組織として総合的品質管理 (TQM) を確立し、運用 (<u>し、診断</u>) するために推奨される内容と方法
規格の利用者	TQMを実践する組織、およびTQMを評価・診断する組織
制定のねらい	<p>TQMの主要な活動要素については、既に、JSQC規格が制定されているが、それらを包括して組織としてTQMを導入するためのTQM全体像については未だ規格を提供ししていない。そこで、それらの活動要素全体の構造を明らかにして、組織としてのTQM導入・推進に資する為の規格を制定することを意図する。</p> <p>TQMとは、業種・業態により、更には各組織の背景によりその形態は異なるべきである。更に言えば、ある一組織においても時の経過とともに進化していくべきものであり、それを一律に規格化しようという試み自体が間違っているという見解もある。既にTQMを実践し高度なレベルに達している組織ではそのような議論は正統であろう。ただし、TQM未導入の組織や未だ成熟度の低い組織にとっては、その多様性からTQMをわかりにくいものにしてしまい、導入に躊躇してしまったり、推進途中で方向性を失ってしまったりする懸念もある。</p> <p>一方で、独自性を強調するあまり、基本と大きくかけ離れた自己流のTQMに陥り、成果をあげないばかりか形骸化して弊害を生んでいる事例も散見される。そして、そのような活動にTQMという名称を使われ、その弊害を喧伝されたためにTQMに対する誤解を生んでしまいTQM普及の妨げになってしまう例も散見される。</p> <p>そこで、品質管理学会として、各組織がそれぞれの実情を踏まえて独自のTQMを構築するための土台作りに役立つようなTQMの基本を規格として提示することを意図する。すなわち、TQMを構築し推進していくためのステップを「守破離」に例えると、本規格ではその「守」レベルのもの、言い換えるとTQM導入後2年程度で目指す姿(?)を提示したい。</p>
制定によって期待される効果	<p>(1) TQM未導入・導入初期の組織に対して、TQM導入段階で目指すべき方向性を構築する参考となる。</p> <p>(2) 独自のTQMを推進している組織が、TQMの基本を見直すことにより、その方向性を確認したり修正したりすることができる。</p>
制定によって影響を受けると思われる組織・人	<p>(1) TQMの導入を検討している組織</p> <p>(2) TQM導入段階でその方向性を模索している組織</p> <p>(3) 既に独自のTQMを実践しているがその見直しをはかろうとしている組織</p> <p>(4) TQMに関する教育セミナーを開催している組織</p> <p>(5) TQMに関する審査・診断・表彰を行っている組織</p>

<p>制定までのおおよそのスケジュール</p>	<p>(1) 2021年1月～2022年 6月 作業原案の作成 (2) 2022年7月～2022年10月 審議委員会による審議とパブリックコメント募集 (3) 2022年12月 規格の発行</p>
<p>原案作成に当たって参考となる資料</p>	<p>(1) 当学会規格 (2) 中條武志・山田秀編著「TQMの基本」日科技連出版 (3) 光藤義郎「TQMの考え方とその推進」日科技連出版 (4) デミング賞委員会 デミング賞のしおり等 デミング賞関連資料 (5) 米国国歌品質管理賞、欧州品質管理賞関連資料</p>
<p>提案委員会・研究会・部会名</p>	<p>日本品質管理学会 標準委員会</p>